

平成28年2月25日
愛媛大学

発酵茶シンポジウム第2弾 「注目の発酵茶 どう活かし どう伝える？」を開催

このたび、愛媛大学地域創成研究センターは、「発酵茶シンポジウム第2弾」を下記のとおり開催します。

近年、健康機能に関する記事や番組等の影響により、発酵茶への注目が高まっていますが、その一方で、需要の高まりに対応できる生産・流通体制をどう整えるかが大きな課題ともなっています。今日まで、それぞれの土地に根ざして生産・消費することで伝承されてきた日本独自の発酵茶文化を、どうつなぎ伝えていくかは、生産者のみの問題ではありません。

本シンポジウムでは、日本の発酵茶4大産地が集結し、魅力の発信、生産農家の確保や販路拡大、多様な利用法の開発など、これからの連携した取組みについて考えます。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：平成28年3月8日(火) 13:30~16:00

場 所：愛媛県生活文化センター第1研修室 ※別紙裏面をご参照ください

プログラム：別紙をご参照ください

定 員：100人（定員になり次第締め切らせていただきます）

参 加 費：無料

参加申込方法：所属、氏名、連絡先（TEL、e-mail）を添えて、下記までメール又はFAX
でお申し込みください

※締切 平成28年3月4日（金）

駐 車 場：無（公共の交通機関をご利用ください）

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学地域創成研究センター

（竹村・菊川）

TEL:089-927-8974/FAX:089-927-8820

Mail:kensien@stu.ehime-u.ac.jp

※送付資料2枚（本紙を含む）

発酵茶への注目が高まっています。
産地では今年度産のお茶は早々に
完売。うれしい悲鳴の一方で、
需要の高まりに対応でき
る生産・流通体制をど
う整えるかが課題と
もなっています。
今日まで、それぞ
れの土地に根ざ
して生産・消費
することで伝承
されてきた日本
独自の発酵茶文
化をどうつなぎ、
伝えていくかは、
生産者のみの問題
ではありません。
日本の4大産地が集
結し、魅力の発信、生
産農家の確保や販路拡大、
多様な利用法の開発など、こ
れからの連携した取り組みについて
考えます。

注目の発酵茶 どう活かし どう伝える？

産地の連携した取り組みを考える

シンポジウム
第2弾

日時

2016年3月8日(火)午後1時30分~4時

会場

愛媛県生活文化センター 第1研修室
松山市北持田町139-2 TEL.089-933-1369

発酵茶の
試飲会
あります

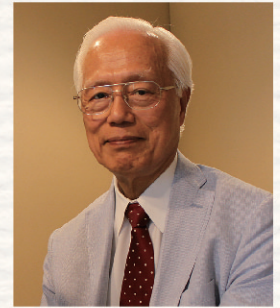
主催 / 愛媛大学地域創成研究センター

基調講演

比べてみれば ～日本と東南アジアの黒茶の姿

講師 大森 正司 氏 (大妻女子大学名誉教授)

長年にわたり、お茶の科学的分析、薬効などについて研究調査を行っている日本茶研究の第一人者で、お茶博士として日本茶の普及に努める。『おいしい「お茶」の教科書』(PHP 研究所)、『新・緑茶の驚くべき効用』(チクマ秀出版社)など、著書多数。大妻女子大学「お茶大学」校長、茶需要拡大推進協会会長。



大森 正司 教授

【休憩・試飲会】



パネルディスカッション

パネリスト

- 戸田 久美 さん (石鎚黒茶／西条市生活研究協議会さつき会)
- 山之内良文 さん (石鎚黒茶／愚禿山 勇氣農法家)
- 吉村 優二 さん (基石茶／大豊町基石茶協同組合)
- 武市 功 さん (阿波晩茶／神田茶生産組合)
- 百野 大地 さん (阿波晩茶／いろどり晩茶生産組合)
- 平木 利明 さん (バタバタ茶／富山県朝日町商工会)
- 轟 浩二 さん (愛媛県東予地方局産業振興課長)
- 受田 浩之 教授 (高知大学副学長)
- 菅原 卓也 教授 (愛媛大学農学部附属食品健康科学研究センター長)

コーディネーター

寺谷 亮司 教授 (愛媛大学地域創成研究センター長)



申し込み・問い合わせ先



愛媛大学地域創成研究センターまで
FAXかメールでお申し込みください。

FAX : 089-927-8820

メール : kensien@stu.ehime-u.ac.jp

締切 : 2016年3月4日(金)

- *当日参加も可能ですが、満席の場合はお断りすることがあります。
- *ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
- *その他、ご不明な点は地域創成研究センター (TEL089-927-8974 竹村) へお問い合わせください。